

日本産婦人科医会 妊産婦重篤合併症報告事業

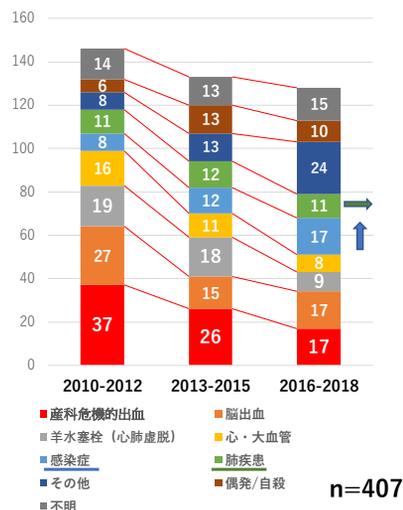
(2021年1月から開始予定)



背景

- 日本産婦人科医会では**2010年から妊産婦死亡報告事業**を行っている。
- 報告されてきた事例は妊産婦死亡症例検討評価委員会で事例の分析を行い、その検討結果を「症例検討評価報告書」として報告医療機関にフィードバックしている。また、事例の登録を行って、事例の発生原因の推移を分析するとともに、再発予防に向けた提言を发出することで、わが国の妊産婦死亡の削減に貢献してきた。
- 妊産婦死亡報告事業開始以降、**産科危機的出血は減少傾向が明らか**であるものの、それ以外を原因とする妊産婦死亡の減少はわずかである。
- 特に、妊産婦死亡の原因の上位を占める**脳出血、心肺虚脱型羊水塞栓症、肺血栓塞栓症、劇症型A群溶連菌感染症**を中心とする感染症についての**再発予防策の検討は重要な課題**である。
- これら疾患での死亡を回避するための具体策を検討するためには、救命できた事例との比較が有用であると考えられる。

妊産婦死亡の原因別頻度の推移
3年間毎の比較



日本産婦人科医会 妊産婦重篤合併症報告事業

(2021年1月から開始予定)



目的

- 妊娠中（産褥1年間まで）に**劇症型A群溶連菌感染症、大動脈解離、脳出血、心肺虚脱型羊水塞栓症、肺血栓塞栓症、周産期心筋症**を発症し、救命できた事例の臨床経過の分析・評価により、救命に寄与する可能性のある管理法について検討すること
- 妊産婦がこれらの疾患を発症した場合の死亡につながる要因を妊産婦死亡報告事業と妊産婦重篤合併症報告事業で比較することで、至適な管理法の確立につなげること

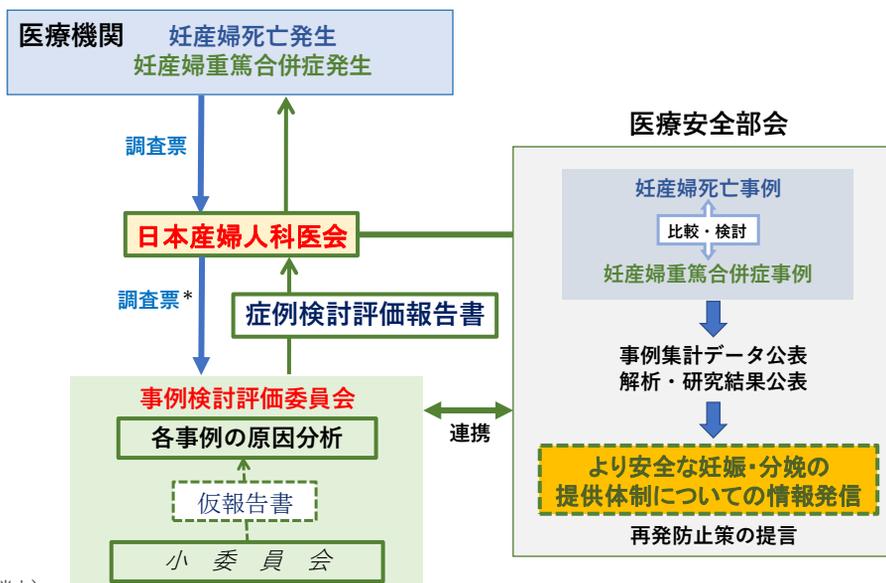
研究方法

- 研究デザイン：前向き調査研究
- 研究対象期間：2021年1月1日～2026年12月31日
- 対象症例：妊娠中または産褥1年以内に、妊産婦死亡につながる重篤疾患を発症し、救命できた事例
- 対象施設：日本産婦人科医会が把握する全分娩取り扱い施設
- 報告のタイミング：事例発生時に報告を行う。

対象疾患

1. 劇症型A群溶連菌感染症
2. 大動脈解離
3. 脳出血
4. 心肺虚脱型羊水塞栓症
5. 肺血栓塞栓症
6. 周産期心筋症

妊産婦死亡報告事業・妊産婦重篤合併症報告事業



* (施設・個人情報は消去)

医療安全部会の活動内容



Mission	Project		Details
医療事故の再発防止	偶発事例報告事業	2004～	産婦人科医療に伴う事故事例を収集し、その情報や注意点を会員に周知し、啓発することで、再発防止を促す。
	妊産婦死亡報告事業	2010～	報告事例を1例ずつ妊産婦死亡症例検討委員会で検討し、その問題点を記した報告書を各医療機関に戻すことで、施設での再発防止につなげる。さらに、母体安全への提言を发出することで、再発防止に向けての啓発を行う。
	妊産婦重症合併症報告事業	2021～	妊産婦に起こった重篤合併症事例について、救命できた事例を報告し、事例を妊産婦死亡例と同様に妊産婦死亡症例検討委員会で検討することで、救命のために必要な管理法について検討する。
	産科医療補償制度＝協力	2009～	日本医療機能評価機構と脳性麻痺児の周産期管理上の課題を共有し、会員に再発防止に向けた注意点についての情報を提供する。「CTG判読ポケットマニュアル」の発刊。
医療の安全性確保のためのスキル向上	日本母体救命法普及協議会 (J-CIMELS)	2015～	母体救命のための初期対応の基本的スキルをロールプレイを通じて研修するJ-MELSコース(ベーシック・アドバンス他)を開催。これまでに1,000コース近くを開催し、ベーシックコースは15,000人以上の受講者。
	無痛分娩関係学会・団体連絡協議会 (JALA)＝連携	2018～	無痛分娩に関わる対応について医療安全の観点から学ぶ研修コース (J-MELS硬膜外鎮痛急変対応コース)を開催。
医療の質向上に向けた会員支援	会員からの要請に基づく支援		医療安全の確保に問題があり、支援を希望する医療機関に対し、地域産婦人科医会や医師会と連携して、施設に訪問しての医療安全に向けた会員支援を行う。
	産科医療補償制度との連携支援	2020～	産科医療補償制度に申請された脳性麻痺事例で「再発防止に向けた検討事項」として同じ指摘を繰り返し受けた施設に、機構から医会の支援の案内を行い、支援要請のあった医療機関に対して地域産婦人科医会と協力して支援を行う。